

ナバナ新品種「瀬戸の春」の育成

加藤伊知郎・片本格・松木保雄

1. 早生で食味の良いナバナの新品種「瀬戸の春」を育成した。「瀬戸の春」は在来品種の「春一番」を母親とし、「伏見寒咲系」を父親として、1990 年に香川県農業試験場三木分場において交雑を行い、系統選抜により育成した固定種である。1997 年 9 月に種苗法に基づき、品種登録の申請を行った。

2. 「瀬戸の春」は、*Brassica.napus* に属し、農林水産省が定めた「ナタネ特性審査基準」によって評価すると、草姿は中、抽だいの草姿は立で、抽だい性は極早である。在来品種の「春一番」と比較して花茎がやや太く、花蕾粒もやや大きい。花蕾の色は濃緑、アントシアニンの着色は無である。

3. 「瀬戸の春」は、9 月上旬播種で 11 月中下旬に花茎が収穫始めとなり、在来品種の「春一番」より約 1 ヶ月早く収穫ができる。また、「春一番」と組み合わせた作付体系により、収穫時期の拡大が可能となり、有利販売や労力分散が期待できる。

4. 花茎は、「伏見寒咲系」と比較して苦みが無く、「春一番」と同様に甘みがあり、食味が良い。

5. 出荷方法は蕾を主体に利用する束タイプ、茎葉を主体に利用する袋詰めタイプのどちらにも対応できる。

キーワード:ナバナ,瀬戸の春,ナタネ